

子どもが生まれるのに失業給付が切れる

「陽だまり」 ネット第5回相談会

しんぶん
陽だまり



7月8日、第五回の相談会。早朝は大雨、準備完了と共に雨も上がり、相談者が相次いだ。深刻さは一層増し、相談者も増加。この日は42件の相談。生活保護申請は14件に達した。

反貧困 くらしと雇用を守る
上小ネットワーク
連絡先 上田市小牧一六二一四
生活と健康を守る会
電話0268(22)9730
第003号

深まる深刻さ

回を重ねるごとに深刻さが増している。今回の特徴をみると、三時間で四十二件の相談があったことをまず挙げられる。市民の目に留まりやすい地の利や外国人のネットワークが影響していると思われるが、回を追って増加しているのはやはり事態の深刻さを反映している。四十二件の内十四件が生活保護申請で、この数はこれまでの合計数に匹敵する。内容をみると、失業給付が切れるのに仕事

まさに、くらしは破局の淵に立たされていくとの実感が一層迫ってきた相談会だった。

仕事がない

何でもいい、仕事が欲しい。働く以外に生きる手段の無い労働者にとって最も深刻な事態が続いている。有効求人倍率は0.24と史上最悪を更新し続けている。短期雇用を繰り返し続けた労働者は多く、雇用保険の受給期間はあっという間に過ぎてしまう。

60日間の延長措置も瞬く間に終わってしま

残された手段は生活保護しかない。相談者のほとんどが「もう切れた」「もうすぐ切れてしまう」という切羽詰まった状態。政府は景気が持ち直しつつあるかのように言うが、雇用情勢は悪化の一途をたどっている。だとすると、今はまだ、バケツの底に大穴があいた程度なのかもしれない。間もなく「底が抜ける」ように思える。

塗炭の苦しみ見過ごせない

存在価値かけ立ち向かう

左の表は集計可能な相談票を基に集計したものです。

実際の相談件数は二十〜三十件程度多くなっています。

しかし大雑把な傾向を把握することは可能だと思えますので数字を発表します。

増加傾向は鮮明

相談件数をみると、回を追うごとに増加し

てきています。

その背景には、相談会が知られてきていることもありますが、何

と言っても史上最低の有効求人倍率に見られるような雇用情勢の悪化です。

そのため「雇用保険がもうじき切れる。仕事が無くして生活が不安だ」という訴えが急激に増えています。第五回の相談会では、ほと

した。

厳しい四十代

相談者を年代別にみると四十代が最も多く生活保護の相談も同様となっています。

これは大変深刻なことですが、生活で考えると、子どもの進学や親の介護などに当たる年代です。仕事でも地域でも「中堅」として重要な役割を担う年代と言えます。

そうした年代でくらしも労働も崩壊が始まっているという事は、子どもの代にまで貧困が引き継がれてしまう可能性、地域社会が中堅の働き手を失って崩壊していく可能性を示しています。

外国籍労働者

彼らの場合は一層深刻な状態にあります。日本に来て十年以上も経つのに、日常会話が困難な人が多く見られます。

単純繰り返し作業を朝から晩まで担わされてきたことから、日本語の習得が出来ずにきました。そして今、そのこと

が障害となって益々仕事から遠ざけられているのです。

今までの相談件数のトータルで見ると概ね三分の一が外国籍の方ですが、第五回だけで見れば半数を占めています。中には、帰国したくともその金もないという相談も見られました。

五回だけで見れば半数を占めています。中には、帰国したくともその金もないという相談も見られました。仕事を待っている子どもや家族がいるのに、送りどころか自分が食っていけないという相談も多く見られました。

そんなことを声を大にして言える場所さえもないのです。

健康不安の増大

私たちが注視しなければならぬのは、どん底のくらしが長引いている下で、健康不安を訴える人が増加していることです。

七月八日の相談会で初めて健康問題での相談者が訪れました。

今までは、相談員が顔色などを見ながら健康チェックを勧めていました。最初から健康問題で訪れる人が出てきたのです。要注意です。

若い世代から未来奪う非情

二十代、三十代の相談者の数は三十六件でした。彼らの不安は、当面

のくらしの不安はもちろんです。将来への不安はそれ以上に深刻です。

単純な慰めや励ましなどでも通用するものではありません。

「いい若いもんが何だ、だらしない」という冷たい視線を絶えず意識しながらの毎日となっているのです。

ある青年は、これ以上親の世話にはなれない、と語りながら無言で首を横に振り続けていました。

どう見ても、普通の青年なのですが、親に毎日のように、早く働けと言われ続けているのです。製造業の安定した会社で働きたいが全くないし、たまにあって腕に技術が無いので採用してもらえない、仕方ないから住み込みで農場に行こうと思っ

た。裏面の野崎さんの詩にも出てきますが、幸せであるはずの新婚生活が、派遣切りで失業、食うや食わずのくらしになってしまいました。

次の仕事のあては全くありません。

生活保護ということになるのでしょうか。何と云うことかと思

います。



やります！第6回相談会

実施日時 8月5日（水）午前 9：30～12：00
会場 ハローワーク前上田城跡公園駐車場内テント
内容 労働、生活、健康など何でも相談

とにかくたくさん皆さんの参加をお願いします。

そして相談者の皆さんを温かく迎えてください。大勢の皆さんの中で、一人ひとりの相談者の皆さんにあたたかい連帯感を感じ取ってもらえることが本当に大切です。

暗く沈んだ表情が次第に笑顔を取り戻していきます。

そんな場がうれしくて、二度三度と訪れる人、相談会のお手伝いをしてくれる人も生まれています。

私たち自身も励まされます。

支援金・物資を

わずかなお米にインスタントラーメン二つ。それでもうれしそうに持ち帰ってもらっています。そのたびに私たちは「少なくとも」
とわびたい気持ちになります。

ひと・モノ・カネがまだまだ足りません。こぶし会館に持ち込んでください。できれば前日まで。

風に向って

のぞき つねお

三月の末 寒の戻りの冷たい風が小雪さえ交えて反貧困・くらしと雇用を守る上小ネットワーク「陽だまり」相談会のテントを容赦なく見舞ったが
待機する弁護士 議員 労組役員 看護師らのゆるがぬ気力と馳せ集まる支援ボランティアのみなざる活気が熱く周りをつつむ

ハローワークからはき出されてくる労働者の顔が厳しくゆがみテント村の呼び込みの声を見開いて集まってくる昨夜から作った温かいトン汁とおにぎりが少し笑顔を戻すあたたかいカンパで寄せられた心こもる地元の食材だ

七つの相談席がたちまちにして埋まった

一つの相談席に着いたのは婚約者の二人だった

男性36才 無造作にのびたひげの浅黒く逞しい顔だ

女性24才 小柄で色白の優しい瞳はやや疲れ気味だ

同じ製造職場に派遣され「派遣切り」に遇った

毎日ハローワーク通いだ仕事がない息苦しさ

失業保険も切れ健康保険もなくお金が底をついた

アパート代は3万円に負けてもらったがこの先払えるかどうか

父親の残した借金の返済をも迫られているが払える当てはない

深夜の飛び込み仕事があれば飛んでいって働く

朝食抜きの日2食で毎日を凌いでいる

不安と焦燥とが錯綜し眠れない夜がつづくという

温かいトン汁のどんぶりとおにぎりコーヒーを出す

「ありがとうございます」 拝みながら食べる

結婚生活への幸せのプランも消し飛んでしまった

女性のおばあちゃんは田舎へ帰って来いと言ってくれるが

田舎へ帰っても仕事にありつける訳ではないのだ

こんな働き盛りの若者が働きたくても働けなくて

苦しみもがき心身をすり減らしているこの現実

この国の政権はこの国を救う心もなくビジョンもなく

大企業を指導もせず非正規切りと解雇をほしのままにさせ見え透いた総選挙目当ての給付金という金をばらまき不景気に名を借りて赤字国債を湯水のごとく発する愚かさ庶民の心の解らないその場の乾いた言動の空しさ無能無責任さにはらわたが煮えくり返る

派遣先企業も泣き寝入りで済ませてはならない労働組合をつくり立ち上がった仲間が沢山いる独りで悩まないで一緒にたたかきましょう。市の福祉課へ生活保護の申請をしましょう。

市会議員さん弁護士さんがいっしょに行ってください。

国民健康保険は国保年金課で相談しましょう。

対面して話していると生きることへの熱い思いが伝わり憲法25条が保障している最低限度の生活を営む権利を

この草の根の力で勝ち取らなければならないと肌で感ずる

「来週就職希望を出した会社の返事がきます」と男性

「就職が決まればいいですね 是非また来てください」

今日の話し合いが人間の輪に確かな絆をつなぐことを願う

冷たい風がテントを終日たたいて吹き抜けたが

二人は笑顔をとりのどし胸をはって立ち上がった

「がんばります ありがとうございました」

元気な言葉を残して冷たい風に向って歩を踏み出した

がんばってね！また来てください！

みんなからの温かい励ましの言葉が絆を結んでいった

次の相談者が着席した 健康そうな65才の独身者

電気も切られ ガスも切られ 仕事にはありつけず

夜家に帰るのが辛くて寂しい 今までこんなに元気で

働いて来たのに働けないなんて ひどいよ！

求めるものを求めて相談会を訪ねる人はまだまだ続いた

向こうからこの国の模様を一変しそうな大きなうねりが

風波を突いて動き出している

(2009年3月27日)